

## 親しみやすいキャラクターで、 子どもに野菜の大切さを伝える

JA岩井のオリジナルキャラクター「ネッキーマン」

JA岩井 高橋文雄

坂東市のJA岩井は、平坦な地形と首都五〇km圏内という地の利を活かし、レタスやネギを中心にした野菜づくりが盛んな地域です。

JAでは、特産の野菜づくりについて子どもたちに親しんでもらおうと、さまざまな食育活動に取り組んでいます。特に、オリジナルキャラクター「未来ファーマー・ネッキーマン」を起用した食育活動は、関係者の注目を集めています。

「ネッキーマン」は、野菜産地のPRを目的としてJAと岩井農協園芸部が制作しました。デザインはネギをモチーフにしたもので、引き締まった白い体と三つに分かれた緑色の頭部が特徴。ネギの杖を持ち、三本の指を立てる決めポーズで、子どもたちにヒーローらしさをアピールしています（写真1）。

ネッキーマンは「究極の担い手」

ネッキーマンは、悪と戦う正義のヒーローではなく、未来の農作業アンドロイド（人型ロボット）という設定。企画を担当した吉岡和久営農課長は、担い手不足の進行でアンドロイドに農作業を託す時代の到来を想定し、「究極の担い手」としてアイデアを搾り出しました。

子どもの関心を引く姿にしたことも重要で、ネギが嫌いな子どもを減らそうという狙いがありました。

デビューは、平成二五年に同市で開かれた「全国ネギサミット2013」。地元の野菜をPRするため、その勇姿を披露しました。イ



写真2 イベント会場では子どもたちに大人気



写真1 得意のポーズを決めるネッキーマン

ベント会場では握手会や写真撮影会に奔走し、訪れた子どもたちの人気を集めました。さらに「一万人とのふれあいキャンペーン」をテーマに名刺交換を行い、産地を売り込みました。会場には、埼玉県深谷市の「ふっかちゃん」をはじめ各

産地のゆるキャラが登場する中で、ヒーローキャラクターのネッキーマンは、異彩を放っていました。

J Aが行う野菜のPR活動のほか、市内外で行われる各種イベントにも登場し、子どもの野菜嫌いを克服するヒーローとして、存在感を強めました(写真2)。

### とぼけた「ねぎ博士」も登場

ネッキーマンは、子どもに親しまれるキャラクターを武器に、さまざまな食育活動にも活躍しています。市内にある保育園では、「ネッキーマンふれあいキャンペーン」と題し、地元の子どもたちの特産の野菜に親しんでもらうイベントが行われました。

園を訪れたネッキーマンは、軽快なテーマ曲に乗って子どもたちの前に登場。得意のポーズ



写真3 野菜のクイズを出題する「ねぎ博士」

を披露すると、子どもたちは手をたたいて歓声を上げました。しゃべらないキャラクターのネッキーマンに代わり、子どもたちに野菜の知識を紹介するため「ねぎ博士」も登場。ねぎ坊主のような髪型と丸眼鏡という、どこかとぼけた容姿のねぎ博士はJ A職員が扮したもので、子どもたちにも受けていました。

長ネギと葉がついたタマネギ、ニンニクを用意して「違いがわ

かるかな」とクイズを出題すると、子どもたちは元気に答えていました。ねぎ博士は「野菜をしっかりと食べて、ネッキーマンのように大きく強くなるう」と呼び掛けました(写真3)。

### 「ネッキーまん」で和菓子に親しみ

J Aでは、ネッキーマンの知名度を上げることで産地のPR効果を高めようと、関連グッズの制作も進めています。中でも、和菓子の「ネッキーまん」と「ネッキーどら」は注目株で、市内の和菓子店で受注製造、販売を行っています。「ネッキーまん」

は、こしあん入りの丸いカステラ地にネッキーマンの形をあしらったもの(写真4)。「ネッキーどら」は粒あん入りのどら焼きに、ネッキーマンの



写真4 和菓子になった「ネッキーまん」

焼印を入れたものです。どちらもやや小ぶりです。子どものおやつに手ごろなサイズです。店主は、野菜嫌いを克服するヒーローとして人気のキャラクターを取り入れ、和菓子離れに歯止めをかけたという思いを込めたといいます。

吉岡課長は「ネッキーマンを起用した食育活動を、子どもだけでなく幅広い層をターゲットにしたものにし、地域の農業理解に役立てたい」と方針を語っていました。